

未来に繋ぐ技術を創る

島村秀樹（株式会社パスコ 代表取締役社長）



大学時代は、高度経済成長が進んだ結果、大気汚染や水質汚濁などの環境問題が社会的な課題として顕在化していました。その頃、隔測工学の授業の中で、「リモートセンシングは人間が生きていくためにある」と教えられ、自分の専門領域で環境問題が解決できるのではないかと期待を膨らましていました。

パスコ入社後の1982年に打ち上げられたランドサットのTM(Thematic Mapper)データの登場は、環境・農業・森林・地質分野の様々な専門家の方々と出会い、自らの専門領域を深め、多くのことを学ぶきっかけになりました。特に、国内外の衛星画像を用いた業務では、先輩方の指導のもと、様々な画像解析手法を試行錯誤することが多く、その難度の高さに「やりがい」を感じていました。また、仕事があれば技術者は育たない、難しい仕事に挑戦しなければ技術力は高まらないと実感したのも、この時期です。そして、リモートセンシング技術とGIS技術の融合の研究を行った後、1988年からは森林管理・都市情報・防災情報や、民間向けのGISシステムの開発に携わり、さらに、航空レーザやMMS(Mobile Mapping System)などによる空間情報の取得や解析技術、航空写真からの自動図化の研究開発を経験してきました。

今年6月に社長に就任しました。期待されることは、

パスコが蓄積してきた豊富な財産とその価値を最大限に活かす施策を打つことと考えています。様々な業務に携わり、また、新しい事業への先駆けとなってやってきた経験や見識を生かし、会社の持続的成長という責務を全うするため、全力を尽くす覚悟でいます。技術者として歩んできた人生を、これからは経営者として、“顧客に信頼される営業力”に“未来に繋ぐ技術”を加えて、未来社会を見据えた空間情報の存在価値を示せるような会社を目指したい。そして、何にでもチャレンジできる会社の魅力を最大限に示し、志ある新たな仲間も迎えていきたいと思っています。

現代社会は、人工衛星やドローンの活用など、測量手段の多様化に伴い、得られる測量成果の情報量が爆発的に増加しています。また、測量技術と情報処理技術の進歩に伴い、空間情報の収集や活用は、平面である2次元から3次元空間の時代に、そして、AIによる解析処理の実装を可能とする時代になりました。

AI, IoT, RPA, ブロックチェーンなどの次世代ツールの導入による自動化や高度化を図っていくとともに、未来の空間情報の活用価値を見据え、保有する測量・計測技術で集めた情報と、時々刻々と変化する社会の状況をリアルタイムに反映させる空間情報の仕組みを構築することは、これから未来を担っていく技術者にとって重要な使命ではないでしょうか。

私自身、社会の様々な課題解決のために、“技術で勝負する”という思いを常に持ち続けています。これからの時代を担う技術者の皆さんには、時代の変化の中で、自分の得意分野を極めること、多くの専門分野の人々と出会い、刺激を受けて自分の幅を広げること、また、失敗を恐れず、失敗を糧に再度挑戦する“しなやかマインド”を養ってほしい。そして、未来に繋ぐ技術を創り上げ、創造性と活力に満ちた会社を皆さんと一緒につくっていきたくと思っています。